Gyro ジャイロ

がんばろう福島

（財）福島県国際交流協会　第６号

※本紙の英語版・中国語版・韓国語版・ポルトガル語版・タガログ語版・フランス語版は、当協会ＨＰからダウンロードできます。

（財）福島県国際交流協会　平成 23 年 9 月 15 日発行号

この度の東日本大震災により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。福島県の今の暮らしをお伝えします。

福島の今

今が旬の梨
（福島市　2011.9.13 撮影）

『アクアマリンふくしま』再オープン
（いわき市　2011.8.15撮影）

世界救急法デーで AED 操作を学ぶ
（福島市　2011.9.10 撮影）

福島からの声

松本　敏江さん（南相馬市　女性）

自宅は海から 2km のところにありました。あの地震があった時、ふと海を見ると白い雲の山のような塊がいくつも見えました。恐ろしいことが起きたと直感しました。そして消防車が「3 時 10 分に大津波が来る」とサイレンを鳴らして走っていきました。ふと時計を見ると 3 時丁度、私と夫は、何も持たずにとりあえず西へ西へ車を走らせました。その後避難所や親せきの家を転々として、5 月 30 日に今の仮設住宅に落ち着きました。日本赤十字社からの電化製品一式をはじめとして様々な団体等から支援物資をいただきとてもありがたいです。今は「これもあった。あれもあった」と過去を見るのではなく、お互い助け合って安心して生活できるように「これからのこと」を考えていきたいと思っています。

蓋　康さん（郡山市　男性）

今回の震災では幸いにも自宅の壁にひびが入ったくらいで大きな被害はありませんでした。私は、電気設備の会社に勤めているので、震災 1 週間後には施設復旧に関わる発注が入り、震災後も忙しく仕事をしていました。一方、ボランティア活動として、世界レベルのホームステイ交流団体「フレンドシップフォース」の福島県代表をしています。毎年海外からの受け入れと海外への派遣をしていますが、今年は 10 月に来る予定だったオーストラリアからの一行は残念ながら中止となりました。何もかも自粛というのでは福島の復興はますます遅れます。外国からのゲストが難しいのなら福島にいる外国出身の方々との交流事業を実施するなど、できることを着実にやっていきたいです。ともかく元気で明るくやりたいですね。

アンドリュー　チャップマンさん（会津若松市　アメリカ出身男性）

私はこの 5 月から会津若松市国際交流協会に国際交流員として勤めています。地震の時は、丁度会津若松市国際交流協会の面接試験のために、台湾から成田行きの飛行機に乗っていました。私は 2 年前にも観光で会津に来たことがありますが、震災後もあまり変わっていないように思えます。でもここは放射線の値も低く直接的な地震の被害も少なかったにも関わらず、風評被害によって、観光客の数は、とりわけ海外からの観光客が劇的に減少し、農産物が売れません。私は震災後も会津で仕事をするということの決心は揺るぎませんでした。こういう大変な時だからこそ、会津に暮らしている外国出身者をサポートし、復興に協力したいという人たちへ情報を発信していきたいです。

高橋　リリアナさん（相馬市　メキシコ出身女性）

地震の時、私は結婚式の準備のためメキシコに帰国していました。日本にいる夫からは実家は津波で流され、実家が経営している幼稚園は避難所となっていると聞かされました。私はすぐに日本に戻りたかったのですが、メキシコの両親は、物資不足の大変な時にみんなに負担かけるのではとどうしても許してくれませんでした。結局 1 か月後に日本へ戻りました。メキシコの両親は放射線のことをとても心配していますが、私が夫と一緒であり、みんなの役に立っていることを知り、ほっとしているようです。私は今、幼稚園を手伝っています。たくさんのイベントや援助は、幼稚園の子どもたちの心の支えとなっています。半数の子どもたちが家を失い、なかには家族を失った子どももいます。子どもたちに以前の笑顔が戻るようにすること、これこそが私がここに戻った意味です。

発行者
（財）福島県国際交流協会　〒960-8103　福島県福島市舟場町 2-1
☎024-524-1315　FAX 024-521-8308　E-mail info@worldvillage.org　URL http://www.worldvillage.org